平成18年度農林水産省総合食料局委託
「食料需給予測調査分析事業（食品産業動態調査）」

食品製造業における国産原料使用実態及び製造コスト低減の課題について

平成１９年３月

社団法人食品需給研究センター

目　次

要　約　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1
１　回答企業の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・　5
２　国産原料の使用実態と課題　・・・・・・・・・・　11
（１）国産原料の仕入額割合　・・・・・・・・・・・　11
（２）原料仕入数量の変化　・・・・・・・・・・・・　15
（３）原料仕入価格の変化　・・・・・・・・・・・・　21
（４）国産及び輸入原料の比較　・・・・・・・・・・　25
（５）国産原料の問題点・課題　・・・・・・・・・・　30
３　製造コスト低減の課題　・・・・・・・・・・・・　41
（１）収益構造の変化　・・・・・・・・・・・・・・　41
（２）製造コスト削減の方法　・・・・・・・・・・・　55
（３）原料仕入コスト削減の方法　・・・・・・・・・　63
（４）製造コスト削減対策実施による効果　・・・・　70
（５）環境規制対応等による製造コストの増加要因　・　72
（６）原油高騰の影響　・・・・・・・・・・・・・・　80
（７）経営上の問題点・課題　・・・・・・・・・・・　82

調査の方法

調査の目的	：食品製造業における国産原料の問題点・課題について整理し、今後の国産原料の生産流通のあり方に資する。また、製造コスト低減の現状と課題について整理し、製造業の競争力強化対策の基礎資料を作成すること。
アンケート実施時期	：　平成 18 年 10 月
調査対象数	：　食品製造業 2,000 社
有効回収票	：　609 社
有効回収率	：　30 %

要　約

1　国産原料の使用実態と課題

食品製造業における国産原料の使用割合は、業種によりばらつきが大きいものの、全体では約半数を超えている。国産原料の仕入量についてはやや増加が多くみられ、全体ではわずかに増加している。国産原料の価格についてはすべての業種においてやや上昇となっている。

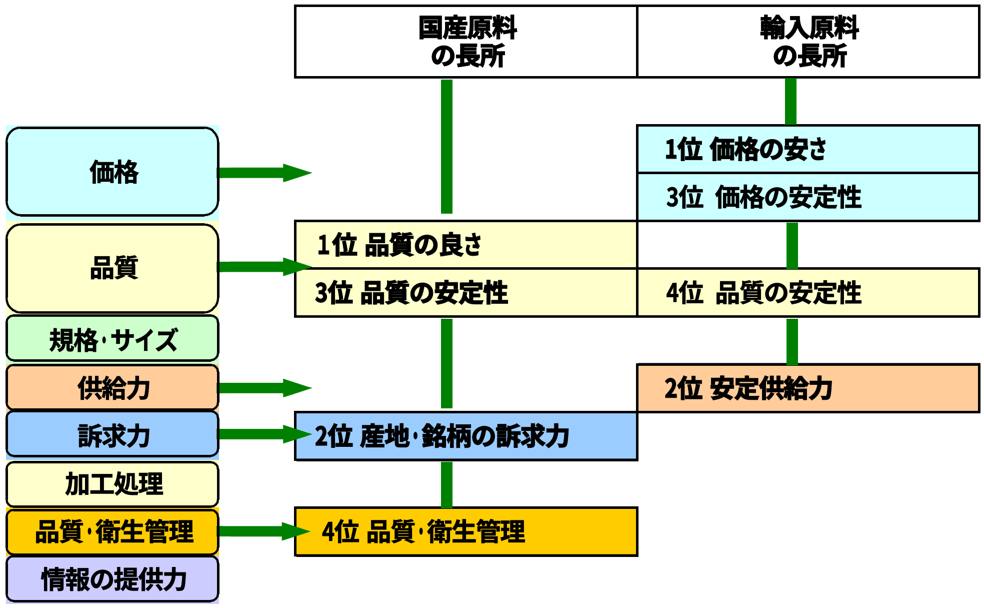
食品製造業における国産原料の仕入動向

	国産原料 仕入割合注	国産原料 仕入動向	輸入原料 仕入動向	国産原料 仕入価格
計	58%	わずかに増加	横ばい	やや上昇
畜産食料品	69%	横ばい	やや増加	やや上昇
水産食料品	55%	やや減少	横ばい	やや上昇
農産食料品	59%	やや増加	やや減少	やや上昇
製穀粉	37%	やや増加	やや減少	やや上昇
食用油	42%	やや増加	やや増加	やや上昇
砂糖	69%	やや減少	やや減少	やや上昇
調味料	51%	やや増加	やや減少	やや上昇
飲料	63%	やや減少	やや増加	やや上昇
菓子	63%	やや増加	やや増加	やや上昇
調理食品	51%	やや増加	横ばい	やや上昇
酒類	90%	横ばい	やや減少	やや上昇
その他	62%	やや増加	やや増加	やや上昇

注：定性調査をもとに単純平均から推計

食品製造業における国産原料の長所は、品質の良さ、産地・銘柄の訴求力、品質の安定性、品質・衛生管理があげられ、輸入原料の長所は、価格の安さ、安定供給力、価格の安定性、品質の安定性となっており、国産と輸入はきわめて対照的である。

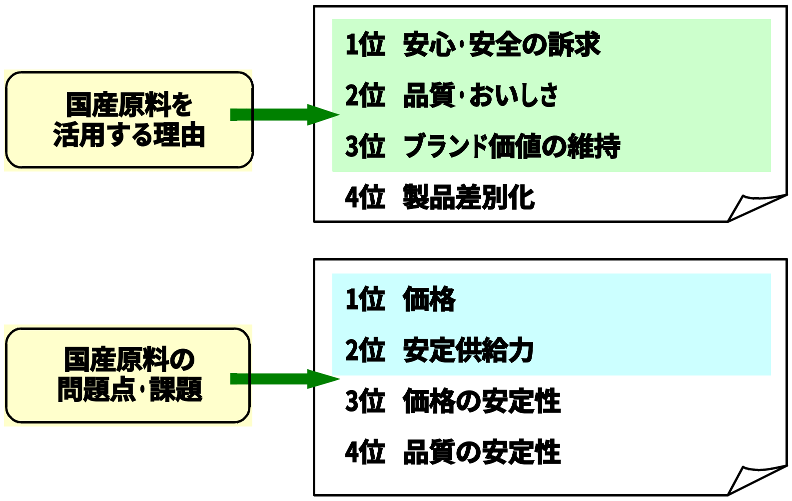
食品製造業における国産原料と輸入原料の比較評価



食品製造業における国産原料を活用する理由は、安心・安全の訴求、品質・おいしさ、ブランド価値の維持、製品差別化となっている。国産原料を活用することにより、安心安全に加え、品質志向による輸入原料との製品差別化のねらいがうかがえる。

国産原料の問題点・課題は、価格、安定供給力、価格の安定性、品質の安定性があげられている。価格、安定供給力、価格の安定性については、輸入原料の長所でもあり、業種や製品ラインにより棲み分けが進行している。国産原料のこれら課題の解決に向けて、農業と食品製造業の連携強化がもとめられている。

食品製造業における国産原料の問題点・課題



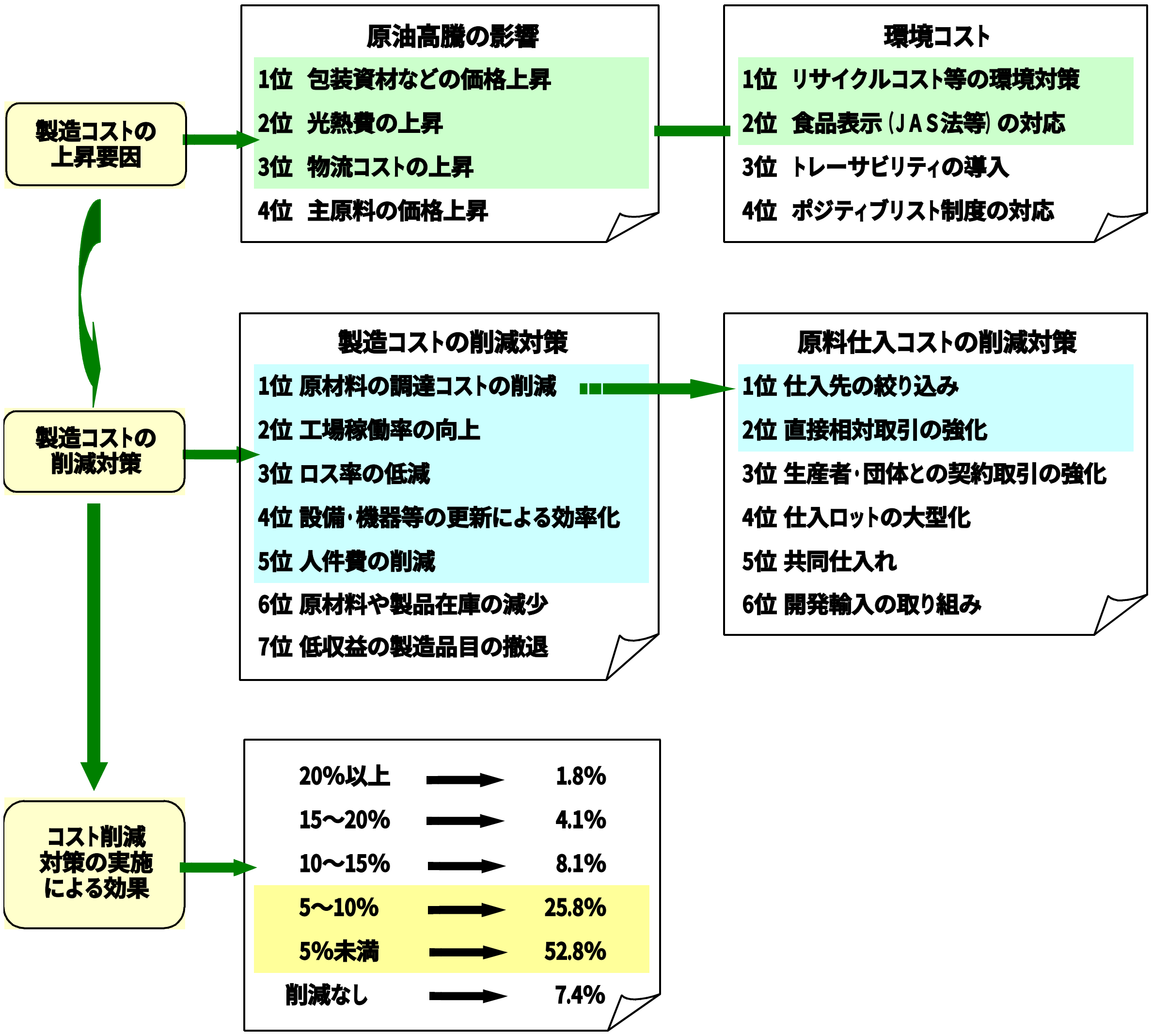
２　製造コスト低減の課題

近年、食品製造のコスト上昇要因として、原油高騰の影響や環境対策コストがある。原油高騰の影響で最も大きいのは包装資材の価格上昇、光熱費の上昇、物流コストの上昇があげられている。環境コストについては、リサイクルコスト、ＪＡＳ法等に伴う食品表示の対応、トレーサビリティの導入、ポジティブリスト制度の対応となっている。

製造コストの削減対策としては、原材料の調達コストの削減、工場稼働率の向上、ロス率の低減、設備・機器等の更新による生産の効率化、人件費の削減などがあげられている。第１位の原材料の調達コストの削減対策については、仕入先の絞り込み、直接相対取引の強化、生産者・団体との契約取引の強化、仕入ロットの大型化、共同仕入れなどとなっている。

また、これらの製造コストの削減対策による効果については、5%未満が最も多く、次いで5%以上10%未満、10%以上～15%未満などとなっている。

食品製造業における製造コストの削減対策



食品製造業における経営上の問題点・課題については、人材の確保と育成、製品の企画開発力、設備の更新、価格競争力、市場シェアの拡大、品質価値の競争力などとなっている。市場の需要創造に向けた製品開発とこれらを担う人材や設備がきわめて重要な市場環境であることがうかがえる。

食品製造業における経営上の問題点・課題

経営上の問題点・課題
1位　人材の確保と育成
2位　製品の企画開発力
3位　設備の更新
4位　価格競争力
5位　市場シェアの拡大
6位　品質価値の競争力
7位　資金調達
8位　企業ブランド価値の向上

1　回答企業の概要

（1）回答企業の業種の概要

回答企業の業種は、「製穀粉」が最も多く 22.2 %、次いで「畜産食料品」が 12.5 %、「調味料」が 10.8 %となった。以下、「その他」が 10.2 %、「水産食料品」が 9.7 %、「酒類」が 9.2 %となった。

資本金規模別にみると、各規模別で 1 億円未満までは「製穀粉」が最も多い。1 億円以上～3 億円未満では「調味料」が最も多く、3 億円以上～ 10 億円未満では「製穀粉」、10 億円以上では「畜産食料品」が最も多い。

図1　回答企業の業種の概要

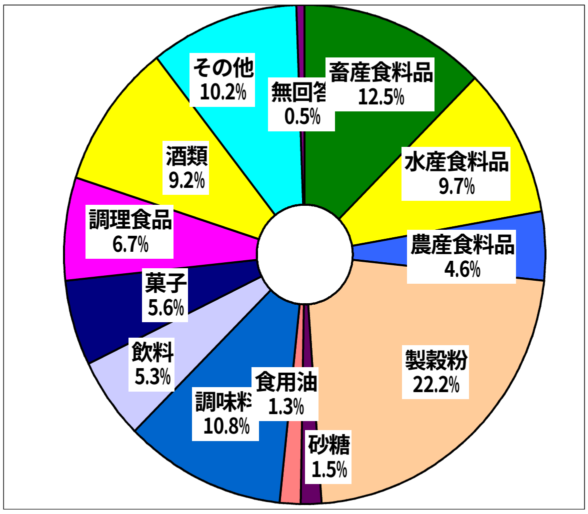


表1　回答企業の業種の概要

		回答数 (社)	計 (%)	畜産食料品 (%)	水産食料品 (%)	農産食料品 (%)	製穀粉 (%)	食用油 (%)	砂糖 (%)	調味料 (%)	飲料 (%)	菓子 (%)	調理食品 (%)	酒類 (%)	その他 (%)	無回答 (%)
計		609	100.0	12.5	9.7	4.6	22.2	1.3	1.5	10.8	5.3	5.6	6.7	9.2	10.2	0.5
資本金規模別	～1,000万円未満	20	100.0	0.0	10.0	0.0	25.0	0.0	0.0	5.0	10.0	5.0	10.0	20.0	15.0	0.0
	1,000万円以上～2,000万円未満	128	100.0	8.6	9.4	3.9	27.3	0.0	1.6	8.6	5.5	9.4	6.3	7.0	11.7	0.8
	2,000万円以上～5,000万円未満	205	100.0	13.7	11.7	6.8	20.0	2.0	0.0	8.3	4.4	5.9	4.9	10.7	11.7	0.0
	5,000万円以上～1億円未満	109	100.0	10.1	10.1	5.5	23.9	0.9	1.8	14.7	4.6	3.7	8.3	9.2	7.3	0.0
	1億円以上～3億円未満	71	100.0	12.7	8.5	2.8	14.1	4.2	4.2	15.5	4.2	2.8	11.3	9.9	9.9	0.0
	3億円以上～10億円未満	38	100.0	21.1	7.9	0.0	26.3	0.0	0.0	13.2	10.5	2.6	5.3	10.5	2.6	0.0
	10億円以上	35	100.0	25.7	2.9	2.9	22.9	0.0	5.7	8.6	5.7	5.7	5.7	0.0	11.4	2.9
	無回答	3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3

（２）回答企業の資本金規模の概要

回答企業の資本金規模は、「2,000 万円以上～ 5,000 万円未満」が最も多く 33.7 %、次いで「1,000 万円以上～ 2,000 万円未満」が 21.0 %、「5,000 万円以上～ 1 億円未満」が 17.9 %となった。「1,000 万円以上～ 2,000 万円未満」と「2,000 万円以上～ 5,000 万円未満」で、全体の約半数を占める。

業種別にみると、砂糖を除くすべての業種で「2,000 万円以上～ 5,000 万円未満」の資本金規模の企業が多い。砂糖では「１億円以上～３億円未満」が最も多い。

図2 資本金規模

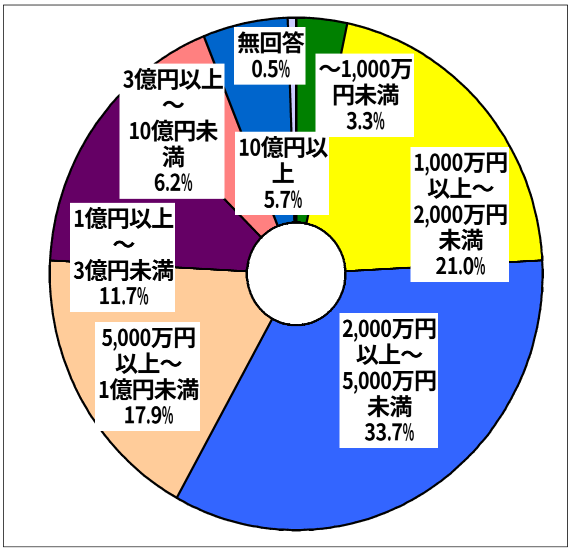


表2 資本金規模

		回答数	計	～1,000万円未満	1,000万円以上～2,000万円未満	2,000万円以上～5,000万円未満	5,000万円以上～1億円未満	1億円以上～3億円未満	3億円以上～10億円未満	10億円以上	無回答
		(社)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
計		609	100.0	3.3	21.0	33.7	17.9	11.7	6.2	5.7	0.5
業種別	畜産食料品	76	100.0	0.0	14.5	36.8	14.5	11.8	10.5	11.8	0.0
	水産食料品	59	100.0	3.4	20.3	40.7	18.6	10.2	5.1	1.7	0.0
	農産食料品	28	100.0	0.0	17.9	50.0	21.4	7.1	0.0	3.6	0.0
	製穀粉	135	100.0	3.7	25.9	30.4	19.3	7.4	7.4	5.9	0.0
	食用油	8	100.0	0.0	0.0	50.0	12.5	37.5	0.0	0.0	0.0
	砂糖	9	100.0	0.0	22.2	0.0	22.2	33.3	0.0	22.2	0.0
	調味料	66	100.0	1.5	16.7	25.8	24.2	16.7	7.6	4.5	3.0
	飲料	32	100.0	6.3	21.9	28.1	15.6	9.4	12.5	6.3	0.0
	菓子	34	100.0	2.9	35.3	35.3	11.8	5.9	2.9	5.9	0.0
	調理食品	41	100.0	4.9	19.5	24.4	22.0	19.5	4.9	4.9	0.0
	酒類	56	100.0	7.1	16.1	39.3	17.9	12.5	7.1	0.0	0.0
	その他	62	100.0	4.8	24.2	38.7	12.9	11.3	1.6	6.5	0.0
	無回答	3	100.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3

（３）回答企業の従業員数

回答企業の従業員数は､｢10 人以上～ 50 人未満｣が最も多く 36.6 %､次いで｢100 人以上～ 300 人未満」が 21 %､「50 人以上～ 100 人未満」が 20.7 %となった。

業種別にみると、畜産食料品、水産食料品、製穀粉、食用油、砂糖、調味料、飲料、酒類、その他では、「10 人以上～ 50 人未満」が最も多い。農産食料品、菓子では、「50 人以上～ 100 人未満」が多く、調理食品では、「100 人以上～ 300 人未満」が最も多くなった。

資本金規模別にみると、１億円未満までの企業では「10 人以上～ 50 人未満」が最も多く、１億円から 10 億円未満の企業では、「100 人以上～ 300 人未満」が多い。また、10 億円以上の企業では、「300 人以上～ 1,000 人未満」が最も多く、資本金規模と従業員の間には、相関がみられる。

図3 従業員数

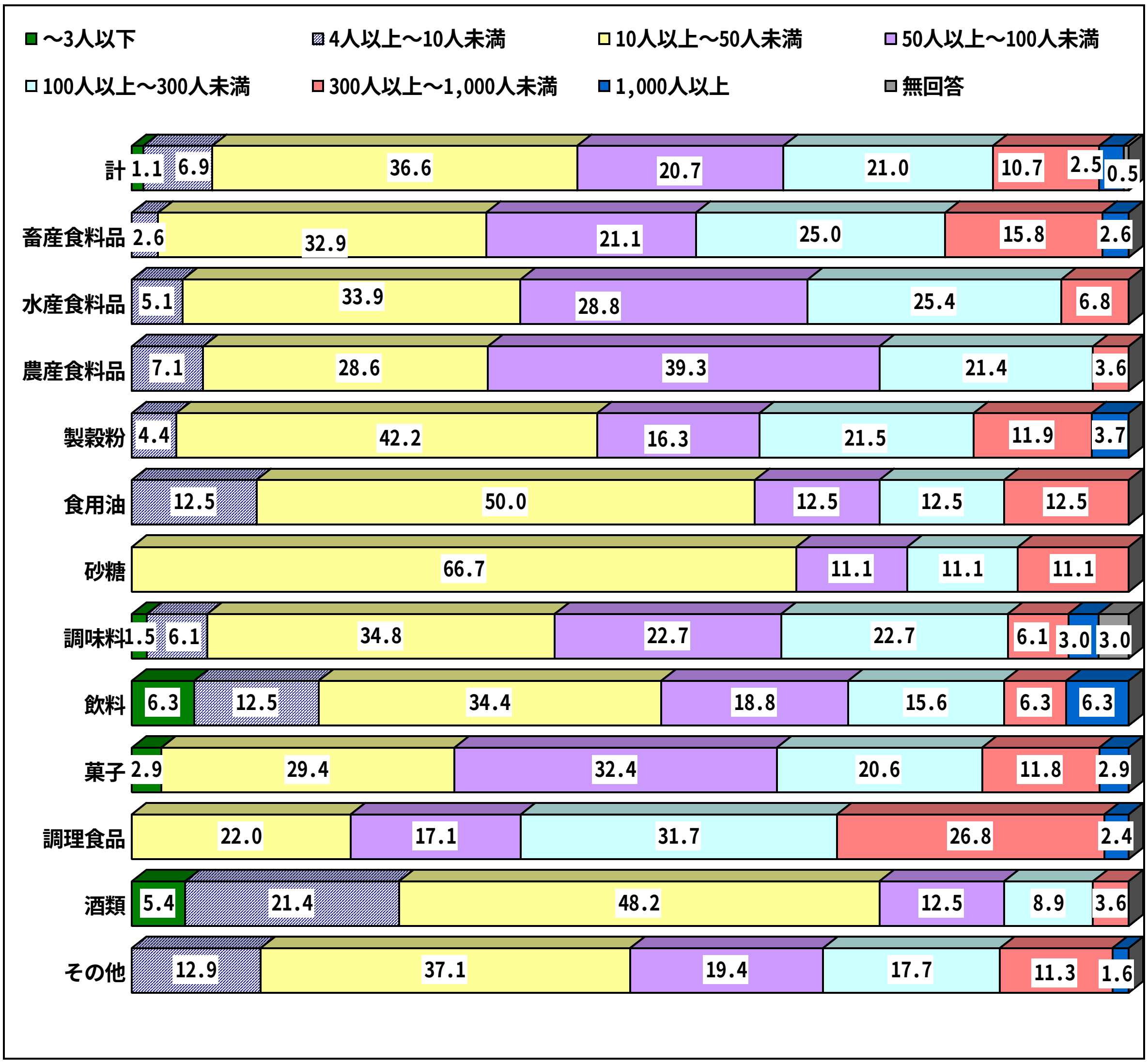


表3 従業員数

		回答数 (社)	計 (%)	～3人以下 (%)	4人以上～10人未満 (%)	10人以上～50人未満 (%)	50人以上～100人未満 (%)	100人以上～300人未満 (%)	300人以上～1,000人未満 (%)	1,000人以上 (%)	無回答 (%)
計		609	100.0	1.1	6.9	36.6	20.7	21.0	10.7	2.5	0.5
資本金規模別	～1,000万円未満	20	100.0	20.0	25.0	45.0	0.0	5.0	0.0	5.0	0.0
	1,000万円以上～2,000万円未満	128	100.0	1.6	14.8	50.8	20.3	12.5	0.0	0.0	0.0
	2,000万円以上～5,000万円未満	205	100.0	0.5	6.3	47.8	25.4	17.1	2.9	0.0	0.0
	5,000万円以上～1億円未満	109	100.0	0.0	2.8	32.1	22.9	31.2	10.1	0.0	0.9
	1億円以上～3億円未満	71	100.0	0.0	2.8	19.7	26.8	28.2	22.5	0.0	0.0
	3億円以上～10億円未満	38	100.0	0.0	0.0	2.6	10.5	42.1	39.5	5.3	0.0
	10億円以上	35	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.1	48.6	34.3	0.0
	無回答	3	100.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
業種別	畜産食料品	76	100.0	0.0	2.6	32.9	21.1	25.0	15.8	2.6	0.0
	水産食料品	59	100.0	0.0	5.1	33.9	28.8	25.4	6.8	0.0	0.0
	農産食料品	28	100.0	0.0	7.1	28.6	39.3	21.4	3.6	0.0	0.0
	製穀粉	135	100.0	0.0	4.4	42.2	16.3	21.5	11.9	3.7	0.0
	食用油	8	100.0	0.0	12.5	50.0	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0
	砂糖	9	100.0	0.0	0.0	66.7	11.1	11.1	11.1	0.0	0.0
	調味料	66	100.0	1.5	6.1	34.8	22.7	22.7	6.1	3.0	3.0
	飲料	32	100.0	6.3	12.5	34.4	18.8	15.6	6.3	6.3	0.0
	菓子	34	100.0	2.9	0.0	29.4	32.4	20.6	11.8	2.9	0.0
	調理食品	41	100.0	0.0	0.0	22.0	17.1	31.7	26.8	2.4	0.0
	酒類	56	100.0	5.4	21.4	48.2	12.5	8.9	3.6	0.0	0.0
	その他	62	100.0	0.0	12.9	37.1	19.4	17.7	11.3	1.6	0.0
	無回答	3	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3

（４）回答企業の製品製造主体区分

回答企業の製品製造主体は、「自社オリジナル製品製造主体」が最も多く 70.1 %、次いで「ＯＥＭ主体」が 16.4 %となった。

業種別にみると、すべての業種で「自社オリジナル製品製造主体」が最も多い。食用油、砂糖では、製造子会社が２番目に多く、畜産食料品、水産食料品、農産食料品、製穀粉、調味料、飲料、菓子、調理食品、その他では、ＯＥＭが２番目に多かった。特に、飲料ではＯＥＭ主体が 31.3 %と高い。酒類では、92.9 %が「自社オリジナル製品製造主体」であった。

図4 製品製造の主体について

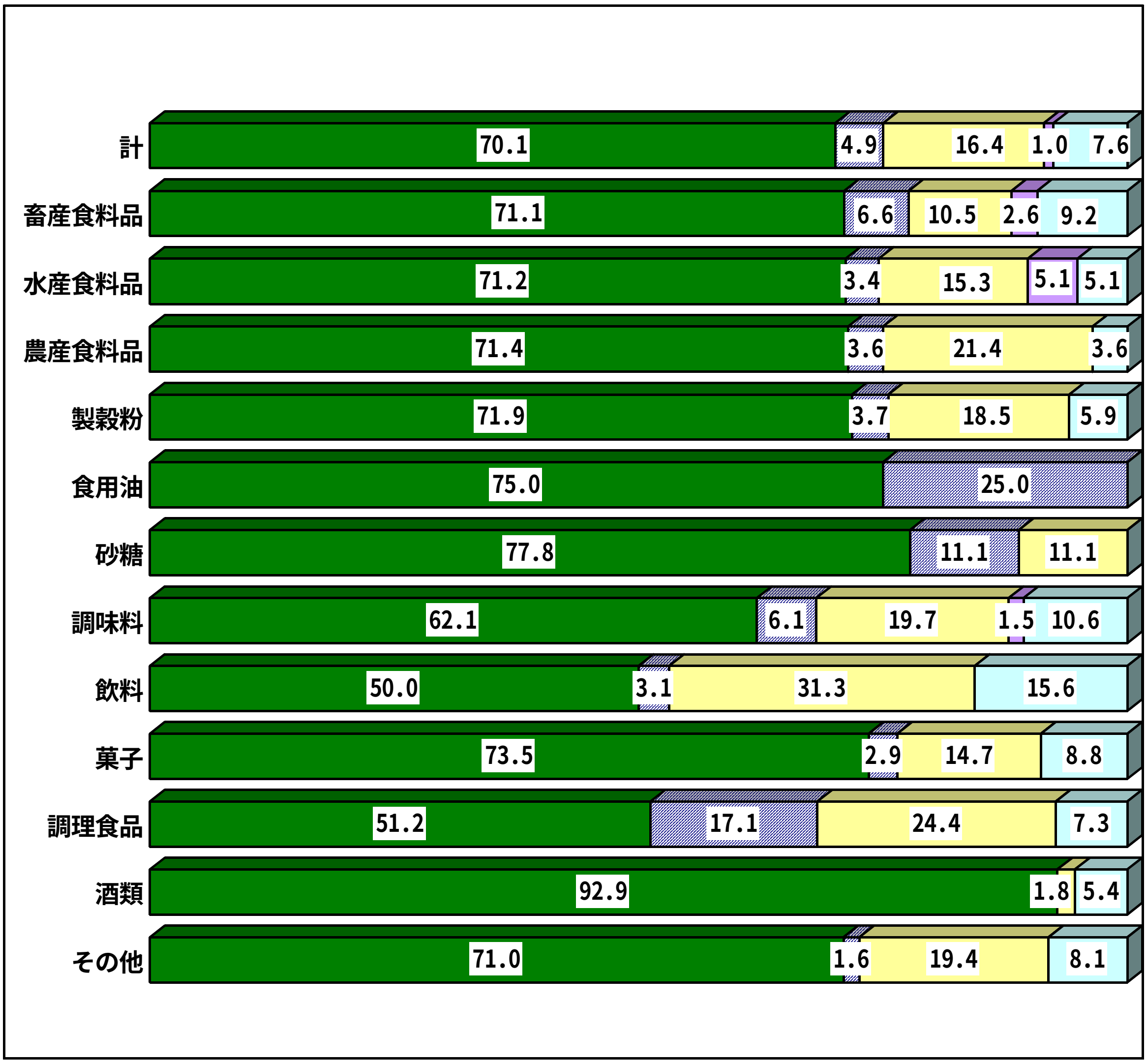


表4 製品製造の主体について

		回答数 (社)	計 (%)	自社オリジナル製品製造主体 (%)	製造子会社 (%)	OEM主体 (%)	外部への製造委託主体 (%)	無回答 (%)
計		609	100.0	70.1	4.9	16.4	1.0	7.6
資本金規模別	～1,000万円未満	20	100.0	80.0	5.0	5.0	5.0	5.0
	1,000万円以上～2,000万円未満	128	100.0	72.7	3.1	14.8	0.0	9.4
	2,000万円以上～5,000万円未満	205	100.0	67.3	6.3	19.0	1.5	5.9
	5,000万円以上～1億円未満	109	100.0	73.4	3.7	18.3	0.0	4.6
	1億円以上～3億円未満	71	100.0	59.2	9.9	16.9	1.4	12.7
	3億円以上～10億円未満	38	100.0	68.4	2.6	15.8	0.0	13.2
	10億円以上	35	100.0	88.6	0.0	5.7	2.9	2.9
	無回答	3	100.0	33.3	0.0	33.3	0.0	33.3
業種別	畜産食料品	76	100.0	71.1	6.6	10.5	2.6	9.2
	水産食料品	59	100.0	71.2	3.4	15.3	5.1	5.1
	農産食料品	28	100.0	71.4	3.6	21.4	0.0	3.6
	製穀粉	135	100.0	71.9	3.7	18.5	0.0	5.9
	食用油	8	100.0	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0
	砂糖	9	100.0	77.8	11.1	11.1	0.0	0.0
	調味料	66	100.0	62.1	6.1	19.7	1.5	10.6
	飲料	32	100.0	50.0	3.1	31.3	0.0	15.6
	菓子	34	100.0	73.5	2.9	14.7	0.0	8.8
	調理食品	41	100.0	51.2	17.1	24.4	0.0	7.3
	酒類	56	100.0	92.9	0.0	1.8	0.0	5.4
	その他	62	100.0	71.0	1.6	19.4	0.0	8.1
	無回答	3	100.0	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3